

## 平成22年度 第1回福知山千年の森づくり協議会 結果報告

## (概要)

標記協議会が開催されました。

- ◆日時 平成22年9月1日(水)  
午後2時15分～午後4時
- ◆場所 福知山市民会館24号室

## 1 開会・挨拶

(松山正治市長)

- ・森林の守り方も変わり、伐採そのものから変わってきている。
- ・山も川も人の心も変わったかもしれないが千年の森を大切に守り育てていきたい。
- ・上半期はグリーンウェーブ2010への参加、大江山一斉登山、ケヤキ苗木贈呈式を実施した。
- ・本日は、下半期の具体的な活動等について協議していただきたい。
- ・農山村の活性化、農業振興、観光振興も人づくりも一緒だと思う。
- ・委員の方々には多方面から種々検討いただき、今年度下半期の活動等についても協力してほしい。
- ・森林施業の支援も進めているが、豊かな森づくりは、子どもたちの心も豊かに育てていくと思う。

## 2 委員の出席者

25人中17人

## 3 協議事項

- ・事務局から上半期の事業報告及び事業計画を説明し、全て承認を得た。

## 4 意見交換 ・ ・ 報告事項・協議事項に対して

森本会長：京都では病害虫によるナラ枯れが多く予防策を懸命にしている。福知山市は資源・文化があるのに上手く使われていない。23年度は委員の方の意見を聞いて進めていきたいと思う。

仕名野副会長：昨年度、魅力ある情報発信という話もできたので、今年5月から「千年の大江山連峰」ブログを立ち上げた。記録として残していこうと考



協議会開会



市長挨拶



森本会長挨拶



協議事項説明

えている。私が知った情報を載せるというのにとどまっているので、皆さんからの意見などをお願いしたい。

赤松委員：この夏は大変に暑く、秋になるとスズメバチ・まむしが多くなるのではないかと思います。

岩佐委員：フィールドワークは良い事だと思う。現地を歩けば気がついてよい。大江山も国定公園になり、その恩恵を受けて他府県の車が多いようだ。マナーもかなり良くなってきた。クリーンデーがたった10名の参加で職員の方が多い。やる気のある人は多いと思う。広報の仕方を考えてみてはどうか。山を見ながらきれいにするとか、自然志向の人が多いのでこのチャンスを生かせないだろうか。

大江山にはタニウツギとか、ヒュウガミズキなどがあり、鉱山の跡に植えたりしていったらどうか。

藤原委員：緑の基金還元事業で約10万円いただいてグリーンロッジ付近を整備した。色々な事業がリンクする形で広がればよいと思う。グリーンロッジ付近の川は夏にはすごい人であった。二瀬川付近も自然志向で多かった。これらのチャンスを捕まえていく必要がある。

森林整備、環境整備、観光拠点の整備をしていく事が大事。地元の森林組合も委員になってもらってもよいのではないか。

組合代表として委員の命を受けた。森林整備だけでなく意識を変えようという話をして、環境保全に取り組んでいる。林道の側溝清掃等を行った。これからも手入れをして行く予定だが、市道の側溝はひどい。

松枯れがあり、鬼のモニュメント付近の赤松に薬を注入している。

森づくりを進めていくなかで色々お世話になりたい。

渡邊委員：府民だよりで言葉を見せてもらった事はあるが、活動の方は不勉強なのでこれから、勉強していきたい。

藤田委員：ホームページ等協力できなくて申し訳なかった。私は美術関係をしているので、小中学生に山の美しさ、その奥にあるものをしみじみ感じてもらいたいと思うスケッチ・風景画を書く機会をつくったり、押し花、染色等の体験コーナーなど、参加できるものにしてはどうか。



仕名野副会長



左から三本氏（中島委員の代理）、赤松委員、藤原委員



左から仕名野副会長  
岩佐委員、渡邊委員



左から佐々木委員、藤田委員  
梅原委員、大槻委員

梅原委員：昨年から参加している学生なのですべてに参加できるか分からないが、フィールドワークにはできるだけ参加したいと思う。

大槻委員：初めての参加だ。分からない事が多いので皆さんの意見を聞かせてもらって勉強していきたい。

江浪委員：今年は熊がピークだ。今年COPU10がある。大江山は生物多様性があり、上手く共存していかなければと思う。安易なかかわりかたをしてはいけない。それなりの装備をして山に入ってもらいたいと思う。緑の少年団も森づくりをしている。将来につながる取り組みにしていければと思う。

木下委員：10月に大きな会議が開催される。COPU10である。生物多様性条約を議決するものである。全世界で約3000万種の生物が生息しているが、毎年4万種が絶滅している。これをなんとかしなければということで、190カ国が加盟して名古屋で開催されるものである。

公園においては、山陰海岸の世界ジオパーク登録を進めている。生物多様性を活かした環境教育や多様性を学ぶエコツアーの実施や、ジオパーク等の観光にも力をいれ、天橋立の観光客をターゲットにして、こちらの方へ誘導出来ないかと思う。

西山委員：これだけの活動されている事を知らなかった。インターネットのサイトをもっと活用して報告や募集をしたらどうか。内容は良い事をしているのに参加が少ない。母親の立場からすると、子ども達の夏休みの宿題に繋がるものや、参加してメリットがある楽しい事を併せて企画した方が良いと思う。

エスプレックでも、モデルフォレストで毛原の森づくりとして「つつじの森」をやっているが、社内でも人が集まりやすいかというところ何かプラスアルファがないと難しい。

下半期の活動には参加したい。

正木委員：昨年、メモリアル植樹をお世話になった。良い石碑も作ってもらった。多くの人々に千年の森づくり、国定公園指定をPRしている。

地元の新緑祭りでもPRしているが、地元でも知らない人がある。宣伝する事が大事だと思う。千年のメモリアル植樹の場所は草が茂ってきている。折角植えた物をダメにしないように。管理をすることは大変だが、後の管理をしっかりとする事が大事だ。

三本(中島委員代理)：KTRでは、HPへの掲載、登山客にイベントに関する広報等の協力が出来るのではないと思う。京丹後市では、ジオパークの関係で依頼を受け、各駅で横断幕を出している。

赤松委員：熊・鹿・猪等の対策を真剣に考えないと山に入れない。夜は外に出られない。他の地域と連携して考えることが大切である。



左から藤田委員、梅原委員  
大槻委員、塩見委員



左から江浪委員、木下委員  
西山委員、正木委員

人がかかわらないと山は変わらない。人が逃げるとダメになる。

福知山森林組合の人にも入ってもらったらよい。

植林も柱材をつくるという発想だったが、m<sup>3</sup>あたりの単価が下がり、投資にならない。

由良川の川遊びをやったが、そういう人を仲間に入れたりしたらどうか。

土地にあった植生を考えて植樹をしていく。連携してやっていければ。

千丈ヶ嶽（大江山）の山頂も木が大きくなってススキが少なくなってしまったので、伐ってしまいたい部分がある。

京阪神地域のマーケティング調査をしてプラスになるものを考えていかないといけない。

村上副会長：大江山へ入って感じた事は、雨が降らないのに二瀬川溪流は枯れない。大江山はとても豊かな森であると思う。また残念な事にこの夏、宇治市のご夫婦の転落事故があった。想像できないような事故であった。30～40年前、鬼嶽稲荷神社は秘境であった。今は昔と違いあつという間に車で登れてしまう。山への恐れを感じておられない方が多くなった。この夏は救急車も多く入った。人が多くなったのだが、山への親しみは持ちつつ山への恐れをもつ事が大事だ。昨年、三岳山の植樹にも参加させてもらったが、子ども達が本当に生き活きて楽しそうに植えていた。今は、竹が生えており、手入れしないといけない。今年は、想像以上の熊、鹿が大変に多い獣対策は深刻な課題だ。森づくりは人づくりであると思う。

佐々木委員：ケヤキ苗木の贈呈式に私の子どもが出席していたが、子どもに内容を聞いてもよく理解していなかった。植樹について、子どもにも分かり易い説明がもっと必要だと思う。

森本会長：今年COPU10が開催される。

①生物の多様性の保全(生物と生物の棲む場所)

②持続可能な利用

③生物多様性の分配

森には水の恵みがある。それを利用する都会の人は森の恵みに貢献しないといけない。是非、色々な工夫を推進して保全を図ることが大切である。都市部(森の恵に貢献する)の人と連携を図ること、言われたことを動きに繋げていく。植樹も作業したら終わりではなく、それがどうなっているのか、次に繋げていくのが大事である。

事務局では、委員の方々が話をしていただける場を作っていただきたい。活動にはもっと宣伝が必要だろうし、例えば、子どもの写真の撮り方にしても顔が下を向いては、行政的には満点であるが、魅力ある情報発信としては落第である。このあたりは行政には無理かもしれないので、違う方法で発信していくことも大切である。

京都検定が人気であり、例えば、検定を作ったり、担い手、サポーターの確保をしていったりすることも大切だろう。

インターネットの「ツイッター」もあるので、若い方に発信してもらったらどうか。

## 5 閉会挨拶

村上副会長：三岳と大江山は、福知山にとって宝物だ。里山は人がかかわりを持たないと生きていけない。山と人との関わりを復活させないといけない。多くの形で山との関わりを持たれて隠れたところで活動されている方が多い。

赤松委員のように、土曜日に内宮で待ち受けてガイドされている方もある。

大江山等の自然を保護しながら活用出来ないか。意見を元に事務局は今後とも、それぞれの分野でお世話になりたいと思う。

森本会長には、将来展望への道筋を教えていただいた。皆さんも森林の育成について尽力をいただいております、できる限り頑張っていきたい。

